

外部評価を受けて

岐阜女子大学は、確かな学士力の育成のため、平成 20 年度に、全専攻・専修で、コアカリキュラムの構成と主要授業科目の学修内容・行動目標の設定、全学的なカリキュラムの再検討を行いました。

その後、平成 21 年度に文部科学省の大学教育・学生支援推進事業として、「社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育」（平成 21 年度～平成 23 年度）に採択され、コアカリキュラムを基盤とした教育課程を再検討し、高大連携（入学前の学修支援）から、初年次補完教育用のテキスト、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブックを作成し、各専攻・専修で一人ひとりの確かな学士力の育成を進めました。

本学の学生は、自分の将来の方向性にかかわる資格取得などのため一日の授業時間数が多くなる傾向があります。そのため、補完学修として、春・夏休みなどに、各専攻・専修の教員の協力で基礎的な課題と発展的な課題を作成、提供し、学修時間を補っています。

これら、長年の、本学教職員の教育への情熱と努力、それに応える学生たちが本学の宝です。

このような、大学の取り組み、今後の方向性や教育実践・研究内容の評価、さらに努力すべき事項などを、外部から見て評価し、改善するための組織として、平成 21 年度から、外部評価委員会をお願いしました。そして、外部評価委員の皆様からいただいた問題点、指摘を受け、教職員が一丸となって改善に努めてきました。

本年度も、8 名の皆様に外部評価委員をお引き受けいただき、貴重なご意見をいただきました。

外部評価委員の皆様のご意見を真摯に受けとめ、改善を進めていく所存です。

ご多忙の中、本学の評価・改善のために、ご指導いただきました外部評価委員の皆様には厚くお礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月

岐阜女子大学

学長 後藤 忠彦